

校長室通信

令和 7 年 7 月 10 日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

毎日暑いが続いています。熱中症指数が高く、運動場で遊べない毎日のため、水泳の時間はとても楽しみにしているようです。最近、民間委託をしている学校も増えてきています。本校もいずれそのようになるのかもしれませんが、教室からすぐにプールに行き、時間いっぱい泳いだり遊んだりできるので、これはこれでいいのかなとも思います。

まもなく夏休みが始まります。校区周辺には宇美川や用水路など水の事故が起きる可能性がある場所もあります。安全な夏を過ごしてほしいと思います。

短い周期と長い周期

昭和、平成、令和を生きてきた私からすると、時代の変化を様々な分野で感じます。例えば、音楽の分野では、私が大学生ぐらいまでは、前奏があって、A メロ、B メロとなって、いわゆるサビのメロディが登場し、ギターソロがある間奏があって…という構成だったような気がします。タイパ重視の現在では、聴衆を引きつけるような特徴的で短めの前奏の後、いきなりサビが登場する曲が増えてきました。

テレビ番組も、録画したものを CM を飛ばしながら見たり、見逃し配信を利用して、関心のある部分だけを見たりすることが増えてきました。

デジタル社会が生活の中にも浸透し、便利になることはとても大切だし、その恩恵もたくさん受けていることも実感する日々です。一方で、「なんだか、結論や結果を急ぎすぎでは？」と感じることも多くなっています。以前は、夜調べたいことがあっても、翌朝図書館が開くまで待たなくてはしなかったことが、今では、インターネットを使って、ササッと調べることができます。さらには、生成 AI を使えば、まとめた文書資料までつくってくれます。

その結果、だんだん人間は深く考える習慣が失われてしまっているのではないのでしょうか。インターネットで、関心があるワードを入力すれば、何万というサイトが候補として挙がるし、SNS 上には、関連する投稿がずらりと並びます。そのおかげで異なる見方や新たな視点に気づかされることもあります。人間が考えるスピードをはるかに超えて結果を示されている感じがします。

私たち大人は、一人一台端末なんてなかった小学校生活を送っているし、このようなスピードが徐々に速くなってきていることを体感しています。このた

め、「きっと～な背景があつてこのような結果になっているんだろうな」という想像をしながら、インターネットと関わっていけるし、「本当にそうかな？」という批判的思考もできるのだと思います。

だからこそ、生まれながらにしてインターネットに囲まれた子どもたちには、この長い夏休みを、一つのことをじっくり考える機会にしてほしいと考えています。

自分が大好きなスポーツを題材にしたちょっと長めの物語を、毎日少しずつ読むことで読破してみてもいいでしょう。また、ずっと気になっていることを、実際に見に行ってみたり、人に話を聞きに行ったり、写真やビデオでまとめてみたりして、実体験を伴った追究をしてみてもいいでしょう。

インターネットで検索して、そこに書いてあることを鵜呑みにして「わかったつもり」になってしまうことや、オンラインゲームのバーチャルの世界の中で満足してしまっていては、これから益々変化の幅もスピードも大きくなっていくであろう将来の社会を豊かに生き抜いていくことは難しいでしょう。デジタルが進化すればするほど、人と人との関わりの中で、自分なりの方法で個性を発揮できる人が、求められる世の中になっていくのではないのでしょうか。

だからこそ、じっくりと一つのことに向き合う時間があるこの夏を、西小の子どもたちが充実したものにしてくれることを期待しています。もちろんそのためには、我々大人の心構えも必要だと思います。親が読書をしている姿を見せたり、子どもの求めに応じて見学や体験の支援をしたりすることも、できる範囲で協力していただければと思います。

夏休み明けに、「今年の夏は、私はこんなことを頑張ってみたよ！」と自信たっぷりの笑顔で登校する子どもたちと出会えることを楽しみにしています。